

一般社団法人
日本新聞製作技術懇話会
会 報 (隔月刊)
VOL.45 No.6
2021.12.1
(通巻 270 号)
禁転載

CONPT

Conference for Newspaper
Production Technique-Japan

広報委員会編集
編集人 下平 泰生
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8 階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>



目次

CONPTオンラインEXPO概要	3
「MIRAI」の開発と今後の展望	5
美味あっちこっち	8
楽事万歳	9
第74回新聞大会・新聞協会賞	10
新聞技術賞・新聞経営賞	11
わが職場あれこれ	11

●表紙写真提供：CONPT-TOUR2019 から 事務局「フランクフルト」

●表紙製版：(株)デイリースポーツ

●組版・印刷：(株)デイリースポーツ

CONPTオンラインEXPO概要紹介

来年2月に開催

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)は来年2月にCONPTオンラインEXPOを開催します。コロナ禍によって最新技術情報の発信が滞ってはいけません。こうした思いでメインテーマは「今こそ新たな情報発信を——AI・DX・スキルレス」としました。

展示会には新聞製作における上流工程、下流工程、新聞関連システム各社に新聞社も加えた17社(11月19日現在)が出展の予定です。新聞製作技術をはじめ新聞社業務全般にわたって最新の技術情報を発信するとともに、各種セミナーを配信します。これからの新聞界にとってヒントになる話題が豊富です。

会期は2022年2月14日(月)～18日(金)の5日間で、24時間視聴できます。会期を終えても、アーカイブ期間として2月28日午後5時まで閲覧することができます。

国内外の新聞・通信・放送各界の方々、新聞技術に関心をお持ちの方々など多数の来場をお待ちしています。

【まず来場者登録・入場は無料】

CONPTオンラインEXPOは入場無料ですが、入場前に登録が必要です。登録事項は氏名・会社名・部署・役職・メールアドレス等に加え、今回の展示会で興味のある事項(キーワード)も選択してください。



CONPTオンラインEXPOのトップページ

登録開始時期など詳しいお知らせはCONPTウェブサイト内の特設ページ(<https://expo.conpt.jp>)に掲載します。

【お勧めの出展社を表示】

来場者はCONPTウェブサイト内の特設ペ

<CONPTオンラインEXPO>

- ▽テーマ：今こそ新たな情報発信を
——AI・DX・スキルレス
- ▽会期：2022年2月14日(月)～18日(金)
 - ・コアタイム10:00～17:00
 - ・視聴は24時間可能

- ・会期終了後2月末まで閲覧可能
- ▽会場：CONPTオンラインEXPO特設サイト
- ▽入場料：無料(登録入場制)
- ▽主催：一般社団法人
日本新聞製作技術懇話会

ージ(<https://expo.conpt.jp>)から入場してください。

オンラインEXPOトップページのアイコンをいくつか紹介します。

▽展示会場入り口：展示会場トップページへご案内します。展示会場トップページでは、出展社の一覧が表示され、検索ができます。画像、キーワードや見どころタイトルなども表示されます。



製品紹介やおすすめ出展社検索ページ

▽来場者マイページ：来場登録をするとマイページが作成されます。ブース訪問履歴やお気に入りブースの一覧、名刺交換した出展社一覧や受信したメッセージなどを閲覧することができます。

▽注目の出展社：出展社をランダム表示します。出展社から招待された方が来場すると、その出展社が見やすく表示されます。

▽お勧め出展社：組版、保守メンテ、デジタルメディア、IT技術——。来場登録時に、興味のあるキーワード・事例を選択しておくことで、そのキーワードに該当する出展社をお勧めする機能を備えました。

来場者が考えている現在および将来の課題について、同じ意識をもって技術開発やソリューションを進めている企業を素早く検索することができます。

【24時間いつでも閲覧OK】

リアル展示会には会期、開会時間といった

制限がありますが、オンライン展示会は24時間閲覧できます。仕事の合間や夜間など、スケジュール、都合に合わせて来場してください。会期終了後も2月末まで視聴可能です。

主催者によるセミナー、出展社によるセミナーとも受講時間の設定はありません。ご興味のあるセミナーを、いつでも何度でも繰り返し視聴することができます。

セミナーは事前視聴予約も可能です。来場者のスケジュールアプリに記録することで、視聴忘れを防ぐことができます。

セミナー視聴は「ながら見機能」も備えています。セミナーを見ながら他のブースを閲覧することができ、時間を有効活用し限られた時間のなかで多くの出展ブースを訪問できます。(セミナー配信プラットフォームによっては利用できない場合があります)

【チャットで打ち合わせ】

出展社ブースページでは、会社のコンセプト、注力領域、おすすめの製品・ソリューション、将来ビジョンなどを掲載します。メッセージ、お問い合わせフォーム、名刺交換機能など来場者とのコミュニケーション機能は1カ所にまとめて、分かりやすく表示。お問い合わせフォームでは、製品の詳しい資料や個別デモンストレーションの希望、個別打ち合わせの希望日時などが入力できます。

興味がある出展社をお気に入り登録することで、簡単に再訪できます。

また、出展社サイトを閲覧中、出展社とチャットでの打ち合わせも可能です。会期中のコア時間内(10:00~17:00)であれば、リアル展示会のように、来場者からも出展社からも互いにアプローチすることができます。テキストチャットに加え、ビデオチャットではリアル展示会と同じようなコミュニケーションが可能です。

(展示会の機能、画面デザインは変更されることがあります)

「MIRAI」の開発と今後の展望

毎日新聞社 東京本社技術センター副部長 若月 竜司

1.はじめに

「MIRAI」(Mainichigroup Rich Artificial Intelligence)は、毎日新聞社が2017年から2019年にかけて開発した素材管理・アーカイブシステムで、「統合素材」(全ての媒体に使用可能な、基になる素材)というリソースプールの概念を導入し、紙の新聞制作はもとより、各種デジタルコンテンツ作成も一元的に扱えることを主眼としている。また、2020年春から秋にかけて、MIRAI2期開発として、デジタルコンテンツとの親和性をより高めるための改修も行った。

旧システムからの移行に当たっては同時期にハードウェア保守期限を迎えた2つのシステムを、互いの親和性や開発コストおよびランニングコスト削減を考慮し、統合することを決定した。統合により、時々刻々とアーカ

イブされていく写真を従来よりも簡単かつスピーディーに紙媒体およびデジタル媒体に再利用ができるようにした。

プラットフォームはオンプレミスからクラウドサービスのAWSへ移行し、サービスのユーザー数増加や不定期なイベント等などによるシステム負荷にも柔軟に対応可能となり、ハードウェアの故障対応や社屋の計画停電対応からも解放された。また、Web APIを用意することで新サービスの考案から開発への移行がよりスムーズに行えるよう環境を整えた。

その他、MIRAIではデジタルトランスフォーメーション(以下DX)を意識し、全く新しいアプリケーションをゼロベースで検討してきた。本稿ではシステム構築で工夫したポイントと今後の展開を説明する。

2.MIRAIの概要と取り組み

今回の開発は単なるハード更新ではなく、「システム・フロー・組織 三位一体の改革」を実行し、DXに対応する仕組みを構築。一部の事実のみではなく、すべての事実を洗い出し、利益を最大化することを意識して取り組んだ。例えば“あったらいいな”機能は削減し、本当に必要な機能の開発にコストを充てることとした。

2-1システムの改革

■AWSを採用

社で保有している既設のVMware基盤上に構築することも検討したが、プライベートクラウドではDRサイト用に稼働率の低い状態でリソースを待機させる必要があることや、

サーバ保守管理に人件費がかかることを考慮するとAWS構築案が優位であった。AWS移行で議論の主テーマとなったのが、可用性、セキュリティ、災害対策の確保である。MIRAIではAWSの特性を調査し、AWSの採用に至った。

可用性について、AWSリージョン内に存在している各アベイラビリティゾーン(以下AZ)は電源の系統が分離して構築されているため、一カ所の停電によりすべてのデータセンターがダウンすることがないよう設計されている。仮想サーバやデータベースは1つのリージョン内に複数存在するAZに分散配置することやマルチAZオプションの選択により高い可用性を確保することにした。

次にセキュリティであるが、AWSでは

Action（どのサービスの）、Resource（どういう機能や範囲を）、Effect（許可／拒否）の設定により、AWS上の各サービスの利用権限を付与するIAMポリシーを正しく管理することが重要となる。MIRAIにおいても各IAMユーザーに適切なIAMポリシーをアタッチすることで不正操作のリスクを減らすよう管理している。また、AWSの操作ログを記録するサービスCloudTrailを利用することで、誰が、いつ、どのような操作をしたかなどの監査情報を取得することも可能である。

記者PCの社外からのインターネット経由でのアクセスにおいては、軽量Webサービスと呼ばれるローカルアプリに内包する形でAPI キーを保持し、そのAPI キーから生成されたJSON 形式のトークン（以下JWT）を基に、MIRAI のAPI サーバはユーザー認証を行う。

JWT には署名が含まれているため、改ざんがあってもチェックが可能で、APIサーバの前段にAWSのWAF サービスを利用することで、接続先URL／メソッド／APIキーが全て正しいリクエストか判定し、セキュアなアクセスを担保している。

最後に障害対策であるが、DR環境を本番環境と異なるAWSリージョンに構築することで従来の日本国内に閉じた構成よりもさらに耐障害性を高めている。本番環境の障害時、切り替えにかかる時間(RTO)は60分未満で、本番環境で更新されたデータを15分間隔(RPO)でDR環境に保存しているため、最長でも障害発生の15分前の状態から作業を継続することが可能となっている。また通常時は停止状態にしておくことでオンプレミスの環境で負担になっていた維持コストを可能な限り削減している。

■ユーザビリティの向上

従前の新聞制作に特化していた専用アプリから、汎用ブラウザを利用し、記者・デスク



図1.記者アプリ画面例



図2.デスクアプリ画面例



図3.アーカイブ検索画面例(記事検索)

とも大きな差異の無いUIで、簡易な操作にて原稿の作成・送稿が行えるようになった。また、従来社外からの原稿送稿やアーカイブ検索をする場合には、社員証・ICカードリーダーを用い、社内ネットワークへVPN接続することが必要であったが、MIRAIでは前述の軽量WebサービスによりAPI キーを使用することにより、VPN接続不要でセキュアな接続を可能とし、社内、社外の環境を問わずシームレスなシステム利用を実現している。

■MAINICHI Photo Bankへの自動連携

従来、管理部署のチェックと承認によりMAINICHI Photo Bank（毎日新聞が運営する日本最大規模のデジタル写真販売データベース。放送・書籍・印刷・広告・インターネットなど各種メディアに販売されている）へ



図4.MAINICHI Photo Bankの画面

の写真アップをしていたが、販売商機を逃さないよう著作権など一定の条件を満たすことで、紙面・WEBへの掲載前にサイトへ自動でアップされるよう改善した。

2-2 フローの改革

■「タイムキーパー制」の導入

従来は多くの記者が紙媒体の締め切り時間を意識して記事を出稿する文化が根付いており、紙媒体用の記事として出稿されてきたものをデジタル用に流用するケースが多くあった。そのため、デジタル配信のベストタイミングを逃し、デジタル収益の機会損失に繋がっていた。



MIRAIでは「タイムキーパー制」を導入し、出稿予定と呼ばれる新聞の見出し単位で作成する素材のフォルダに出稿予定時刻を設定し、記事の出稿をタイムキーパーが交通整理することで、出稿時間の平準化を図ることにした。早く出稿できるものは早めに出稿し、深掘り記事や直前まで新しい情報を掲載したい記事は遅めの出稿を許容するなど現在も試行錯誤が続いている。

表1は、全本社の2019年11月8日と2019年12月20日の出稿時刻の分布比較である。11月8日のグラフでは夕刊業務終了後から朝刊業務開始の間に出稿件数が落ち込む谷が見られるが、12月20日では谷がなくなり、より平準化が進んでいるように見える。今後も定期的にデータを分析し、効果的な人的配置やデジタル収益の改善を目指したい。

2-3 組織の改革

■校閲部署の強化

紙媒体、デジタル媒体にそれぞれ長さが異なる記事を双方校閲するには校閲部署の強化が必須であった。また、デジタル媒体は24時間いつでも記事を配信する可能性があり、デジタル媒体でも高品質な記事を担保するためにも強化は必須となった。

■編集局のデジタル業務統合

MIRAI移行に合わせ、「統合編集局」化を加速させた。紙とデジタル編集作業の一元化を進め、編集編集局が「紙」も「デジタル」も責任と権限を持って情報(商品)の品質管理を一元的に行うことにした。

3.MIRAI2期開発について

2021年2月にリニューアルした自社ニュースサイトに対応するための改修を2020年4月に開始した。

改修項目は操作性の向上を目的とした機能面が中心となった。その1つとして、出稿段

図5.MIRAI出稿予定作成画面



図6.ニュースサイト画面

階で「サイトラベル」という原稿の重み付けを指定し、サイトへ直結するよう改修した(図5の設定が図6のように反映)。

4.まとめ

稼働当初は、AWSの導入によるコスト削減を実現し、Web APIによる新サービス開発などシステムだけではなく、フロー・組織

も同時に改革を行い、収益向上と働き方の改善も目指した。

今後はデジタル収益強化をさらに進めると同時に、弊社で導入したOffice365と連携、新しい出稿フローを確立し東京五輪にて運用する等、社内DX推進への寄与も視野に入れ、単なる「システム」で完結しないよう模索している。

うなぎ丸富（青物横丁）

私の実家は静岡県浜松市で、鰻養殖で有名なエリアです。最近は養殖場もかなり減って、様変わりしてきています。

嘘のような話ですが、小学校の給食にうなぎが定期的に提供されておりました。養殖場近隣の用水路や小さな川でうなぎ捕りをして、運の良かった日には、近所のうなぎ屋に行って捌いてもらい自宅に持ち帰った記憶もあります。おそらく、養殖場から脱走したうなぎだったのでしょう。

さて、今回紹介するうなぎ丸富はカウンターだけ10席程度の小さなお店です。常にうなぎを焼き続けているので、回転も早くあつという間に目の前にどんぶりが出されます。

身は厚くて柔らかく、表面は少し香ばしく焼かれてタレは濃く甘めです。

20数年前は1000円台で食べることができたお店でしたが、現在は2850円となってい

美味あつちうち



井からはみ出している

コダック 久米 邦雄

ます。数年前のうなぎ高騰が影響しており、かなり敷居が高くなってしまいました。それでも、味と井からはみ出した大きさを考えると、リーズナブルで満足度が高いお勧めのお店です。

京急・青物横丁駅から徒歩で3分ほどにありまして、お昼時にはかば焼きの匂いと煙に引き寄せられそうになります。私は匂いと煙だけで満足できるように日々努力をしております。

歳万事楽

神社で心身リフレッシュ

ストラパック 営業本部
システム営業部 システム営業2課課長
飯山 雅志

ここ10年ほど、神社を巡って御朱印をいただくのが楽しみとなっている。

別に信心深い訳ではないが、山や森に囲まれ、静謐な雰囲気的神社を訪れるだけで、心が洗われたような気分になる。近頃、神社はパワースポットと呼ばれ、若者にも人気があり、確かに本宮のみならず周辺の木々にまでパワーが漲(みなぎ)っているようだ。

ここでお気に入りの神社をいくつか紹介させていただく。

■寒川神社(神奈川県高座郡寒川町)

御祭神：寒川大明神

寒川比古命(さむかわひこのみこと)

寒川比女命(さむかわひめのみこと)



相模国一之宮。一応地元なので、初詣だけでなく年に数回お参りしている。八方除の守護神として、他県からも参拝客が大勢来るらしい。

参拝後、参集殿のレストランで食事をするのも楽しみのひとつだ。

■箱根神社(神奈川県足柄下郡箱根町)

御祭神：箱根大神

瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)



木花咲耶姫命

(このはなさくやひめのみこと)

彦火火出見尊(ひこほほでみのみこと)

関東総鎮守。芦ノ湖畔にあり、湖と森に囲まれた神社。赤い鳥居が水面から立ち上がっている様子はとても幻想的。こちらも年数回お参りに行っている。ちなみに元宮は駒ヶ岳山頂にあります。

■愛宕神社(東京都港区)

御祭神：火産霊命(ほむすびのみこと)

江戸初期、防火の神様を祀った神社として建立されたそうだが、神社に登る急な石段がいわゆる“出世の階段”として有名。結構息が切れません。ビルやタワーマンションに囲まれた、都会のオアシス的な雰囲気。



■大神神社(奈良県桜井市)

御祭神：大物主大神

(おおものぬしのおおかみ)

大和国一之宮。大物主大神が三輪山に鎮まるため、本殿は設けずに拝殿の奥にある三ツ鳥居から三輪山を拝する。古の神祀りの様子を伝える最古の神社。まだ一度しか行ったことがない。自然に囲まれた素晴らしい環境で、い

つかまた参拝したいと思っている。

＊

まだまだ好きな神社、印象的な神社は沢山あるのだが、その紹介はまたの機会に。これからも心身共にリフレッシュして心の平穏を得べく、神社巡りは続けたいと思う。リタイアしたら、各都道府県の一之宮を全て巡ってみたいものだ。



新聞大会、盛岡市で開催



第74回新聞大会(日本新聞協会主催)が11月17日、盛岡市の盛岡市民文化ホールで開かれた。東日本大震災から10年、頻発した自然災害やコロナウイルス禍を踏まえ、「信頼される情報の重要性は一層高まっており、新聞には、正確な報道と公正な論評を通じて人々に判断材料を提供し、世代を超えて広く議論を喚起する役割が求められる」との決議を採択した。新聞、通信、放送各社の代表者ら約320人が参加した。

日本新聞協会の丸山昌宏会長(毎日新聞社社長)は挨拶の中で、「災害報道の役割や使命について議論を深めたい」と語るとともに、「ジャーナリズムの活動を支える経営基盤の強化も喫緊の課題」と強調した。

続いて新聞協会賞、新聞技術賞、新聞経営賞の授賞式が行われた。

研究座談会のテーマは「報道は災害にどう向き合うのか」と「これからの新聞社経営を探る」の2つ。丸山会長をコーディネーターに、

パネリストとして中村史郎副会長(朝日新聞社社長)、東根千万億岩手日報社社長、岡島鉄也中国新聞社社長が登壇。出席した各社社長も会場から自社の取り組みや課題を報告した。

新聞協会賞に6件

日本新聞協会は2021年度新聞協会賞授賞作6件を決めた。ニュース部門2件、写真・映像部門1件、企画部門3件。同賞は「新聞報道の力を広く社会に訴える賞」との趣旨を明確にするため、昨年度から編集部門のみを対象にしている。今年度は48社からニュース20件、写真・映像14件、企画54件の応募があった。

【ニュース部門】

▽朝日新聞社「LINE」問題調査報道取材班＝LINEの個人情報管理問題のスクープと関連報道

▽中日新聞社・西日本新聞社愛知県知事リコール署名大量偽造事件取材班＝愛知県知事リコール署名大量偽造事件のスクープと一連の報道

【写真・映像部門】

▽毎日新聞東京本社新型コロナ写真企画取材班＝「ぬくもりは届く」～新型コロナ 防護服越しの再会

【企画部門】

▽日本放送協会NHKスペシャル ミャンマープロジェクト＝NHKスペシャル「緊迫ミャンマー 市民たちのデジタル・レジスタンス」

▽河北新報社東日本大震災10年報道取材班＝「東日本大震災10年」

▽高知新聞社追跡・白いダイヤ取材班＝連載企画「追跡・白いダイヤ～高知の現場から」

わが職場

「道の駅」巡り

宮崎日日新聞社 印刷局印刷部次長 赤木 孝栄

私の趣味は、ドライブがてらの道の駅めぐりです。道の駅とは、一般道の利用者が、いつでも利用できる多機能型の休憩施設で、全国で1193駅が登録されています。今まで私は九州内を中心に80箇所訪れました。魅力としては、その地域ごとの特産物や農産物などおいしいご当地グルメがあることです。また、各店舗には地域の名所・名産品をデザインした「道の駅スタンプ」があり、家族連れが楽しそうにスタンプを押している姿をよく見かけます。屋台などの出店もあり、大人から子供まで楽しめ、食べることが大好きな私には、パラダイスのような所です。

特に印象に残っているのは、熊本県南部の国道445号線沿いにある「子守唄の里 五木」です。九州山地の山岳地帯で、日本一の清流と言われる川辺川が見渡せる高台にあり、山の中のオアシス的な存在で絶景も望めます。隣接した温泉施設もあり、心も体も癒される場所です。

皆さんがお住いの地域にも、有名な道の駅があるのではないのでしょうか？ 私からのアドバイスとして、施設は一般道にあるため、時間帯によって渋滞に巻き込まれ、販売店舗の営業時間に間に合わないこともあります。時間と気持ちに余裕をもち、もちろん安全運転で道の駅めぐりを楽しんでみてはいかがでしょうか。

私はこれから全国1193駅制覇を目標に、頑張ってます。

☆新聞技術賞に中日新聞社 「スマートファクトリー」

日本新聞協会は2021年度の新聞技術賞に中日新聞社の「スマートファクトリー～『見える化』で新聞の未来を拓(ひら)く」(代表：松山哲史・名古屋本社技術局印刷技術部部長)を選んだ。同賞には5社5件の応募があった。

＜授賞理由要旨＞中日新聞社は、新聞印刷工程の省人化・スキルレス化に向けて、輪転機をはじめとする生産設備の運転データを活用し業務を可視化する「スマートファクトリー」を、大府新工場で完成させた。

通信方式が異なる輪転機と周辺設備の直接通信を実現する「ECOリンク」を考案し工場の情報基盤を整備。運転中の輪転機や発送設備などから得られたビッグデータを活用することで、熟練した技能がなくとも的確・容易に生産設備の稼働状況や消耗部品を管理できるようにし、新工場を早期に安定稼働させた。

技術の継承や人員確保が各社共通の課題と

なる中、オペレーターの経験や技能に頼らない工場運営を目指す取り組みは画期的かつ独創的で、多くの社が直面する課題への一つの解決策と印刷工場の将来像を示す技術として高く評価された。

☆神戸新聞社に新聞経営賞

日本新聞協会は2021年度の新聞経営賞を神戸新聞社の「地エネの酒 for SDGsプロジェクト」に贈ることを決めた。同賞には6社6件の応募があった。

地域での資源循環と日本酒づくりを結びつけるプロジェクトに取り組み、地域ブランドを作り収入を得る仕組みを築いたことや地元の産品に着目して循環型社会の実現をめざした先見性が高く評価された。

会員消息

■退会

キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ(株) (9月30日付)

CONPT オンライン EXPO

今こそ新たな情報発信を — AI・DX・スキルレス —

2022年2月14日(月)～18日(金)
2月28日(月)までアーカイブ配信

新聞を支える！

技術が、ある。

◇ CONPT オンライン EXPO 入場無料・登録制

詳しいお知らせは CONPT ホームページをご覧ください
(<https://expo.conpt.jp>)

一般社団法人 日本新聞製作技術懇話会



◀ CONPT オンライン EXPO
トップページはここからも